

生化学的検査の項目

ALT (GPT)

標準値 5~45 IU/L*

肝臓に最も多く含まれる酵素。肝炎などで肝細胞が障害を受けたときに数値が上昇します。

γ-GTP

標準値 10~65 IU/L

肝臓、胆道、膵臓、腎臓などに多く含まれる酵素。閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などで数値が上昇します。

総たんぱく

標準値 6.5~8.2 g/dL

病気で栄養が悪くなったり、肝臓や腎臓が悪くなると数値に異常が出ます。

アルブミン

標準値 3.9~5.0 g/dL

血清たんぱくの大半はアルブミンです。総たんぱくとほとんど同じ意味があります。

A/G比

標準値 1.2~2.0

アルブミンとグロブリンの割合が適正であるかどうかの指標です。

総たんぱく、アルブミン、A/G比は一連のものとして判断されます。

コレステロール

標準値 110~250mg/dL

中高年者には最も気になる数値ですが、これが高いと動脈硬化や高血圧が促進されるといわれています。脂肪の多い食事をとり過ぎていたり、肥満、腎臓、膵臓、胆道などが悪いときにも数値が上昇します。

グリコアルブミン

標準値 16.5%未満

糖尿病の検査の一つです。過去約2週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも15.6%以上の場合は注意が必要です。

献血にご協力いただいた方全員を対象に、血液型のほかに、7項目の生化学検査を行い、結果をお知らせしています。検査結果はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後約2週間程度で親展(書簡の郵便)にてお知らせします。

これらの献血時の検査によって、病気の早期発見ができることもあります。検査の結果が異常な場合には、早めに医師の診察を受けましょう。また、エイズ検査の結果についてはお知らせしていません。

HIV(エイズの原因となるウイルス)感染直後の血液は、検査で感染を判断できない期間(ウィンドウ・ピリオド)があり、その期間の血液が紛れ込んでいると検査をすり抜け、輸血を受ける患者さんにHIVを感染させてしまう恐れ

があります。したがって、HIVに感染している可能性のある方や検査目的の方は決して献血しないでください。



*IU:国際単位